

団体名	(公財)愛知県国際交流協会	多文化共生のまちづくり促進事業	ジャンル
事業名	新たな視点で考える多文化共生の地域づくり ～コミュニティガーデンをモデルに～		意識啓発・地域づくり

特徴	平成 25 年度から始めたコミュニティガーデン事業の活動についてのふりかえり、地域づくりのモデルとして他地域へ提案、発信する冊子を作成した。 また、勉強会の実施等で地盤づくりと多文化共生の担い手の育成を図った。
----	--

事業のポイント

- コミュニティガーデンを拠点とした活動について、地域づくりのモデルとして提案冊子を作成し、他地域へ提案・発信する
- 地域住民がより主体的にガーデンの運営を行い、多文化共生の担い手となることができるよう人材育成を図る

事業の背景・目的

本事業では、「多文化共生」にあまり関心の無い地域住民や、支援されることが多く主体的に地域にかかわることが少ない外国人住民が、気軽に交流でき、地域づくりに参画し、自然な形で多文化共生の地域づくりを推進するためのツールとしてコミュニティガーデンを開設。

平成 25 年度は企画づくり等、26 年度はガーデン開設、27 年度は運営を地域住民が主体となって行った。28 年度は、活動をふりかえり、地域づくりのモデルとして他地域へ提案、発信する冊子を作成。また、地域住民のワールドへのより主体的な活動を促進するため、勉強会を行った。

当事業を協働で実施した刈谷市は、外国人の数が県内で 12 番目に多く、人口比が 1.9%。中核的な市で、他地域のモデルとして適しているとともに、積極的に「多文化共生」事業に取り組んでいた。

事業の概要

1. 地域づくり提案冊子の作成

コミュニティガーデン事業の活動をふりかえり、協働した「ワールド・スマイル・ガーデンツツ木（地域住民が立ち上げたNGO）」との意見交換会や外部有識者などとの議論をふまえてポイントなどをまとめ、地域づくりのモデルとして他地域へ提案、発信する冊子を作成した。

名称	地域づくりを企画するためのアイデアBOOK「ワールドデン物語」～緑とやさしさを育む多文化共生コミュニティガーデン～
仕様・部数	A4 変形サイズ、64 ページ、全カラー、900 部
内容	コミュニティガーデン事業の活動内容やそのプロセス、ポイント、課題や関係者の声、今後の提案などをわかりやすく写真付きで紹介。
配布先	県内市町村・国際交流協会、地域国際化協会等

2. 地域づくりと多文化共生の担い手の育成

(1) 勉強会の開催

開催日	内容	参加者数
6/16	「外国人住民が主体的に関わるための手立て」 講師：ネストール・プノ氏（フィリピン人移住者センター）	19名

(2) 外国人リポーターの配置（外国人リポーター2 名 実地研修（農作業体験）1 回）

外国人住民の主体的な参加を増やすための手立ての1つとして、刈谷市につながるの外国人住民を「外国人リポーター」として配置した。6 月の実地研修（農作業体験会）において、リポーターへのオリエンテーションや発信のポイントなどについての簡単な説明を行ったうえ、Facebook を活用して定期的に、意見交換会や合同作業、実行委員会などワールドデン事業の様子を中国語、ポルトガル語で発信するとともに、外国人住民への広報についてアドバイスをもらった。



地域づくり提案冊子



外国人リポーターへのオリエンテーション

◇提案冊子作成

これまでの活動内容をメンバー全員で、ふりかえり、共有することによって、成果や課題が整理できた。特に、地域住民にとっては、自分たちがやってきたことが、地域にとってどのような意義があることなのかを再認識する機会になり、モチベーションの維持や今後の活動に向けての意欲につながっていくと思われる。

また、冊子という目に見える形にまとめることができたことで、まだ事業に関わっていない地域住民や他地域の多文化共生事業担当者に広くワールデンの活動を知ってもらうことができ、多文化共生の拠点として新たな事業につながりつつある。(平成29年度は、青空日本語教室、外国籍児童による母語・母文化講座などを実施予定)

◇勉強会の開催

一ツ木地区の住民がコミュニティガーデン事業の目的を再認識するとともに、多文化共生の現状を改めて学び、外国人住民とのつながりや関わり方について考える機会となった。



勉強会「外国人住民が主体的に関わるための手立て」

◇外国人リポーターの活用

・外国人住民の視点で活動をふりかえることができたとともに、多言語で生の声を発信することができ、外国人住民に広くワールデンの事業を知ってもらうことができた。

・一ツ木地区の住民以外の参加も少しずつ増え、他地域の人々も巻き込む活動へと広がっている。



実地研修（農作業体験会）

今後の課題・将来に向けての展望等

○今後は、ワールデン事業をさらに地域住民主体の活動へとシフトしていく。今回冊子を作成する中で出てきた課題や提案などを踏まえて、より多くの地域住民が参画できる拠点としてワールデンが継続していくよう、側面的に支援していきたい。特に、課題の1つである、外国人住民の参画の推進については、当協会の他の事業なども活用しながら、様々な仕掛けを提案していきたい。

また、作成した冊子を活用しながら、他の地域に新たな多文化共生事業の提案等を行っていきたいと考えている。

事業担当者のふりかえり

- ⇒ これまでの事業をふりかえったり、まとめたりすることによって、事業の状況を客観的にふりかえることができたこと、また、それを関係者全員で共有できたことはとてもよかった。そのプロセスを通して、地域住民の意識が変化し、より主体的に関わるようになってきていると思う。
- ⇒ 冊子ができたことにより、多くの方たちにワールデンのことを伝えることができ、新しい参加者も少しずつ増えてきている。外国人住民の継続的な参加についてはまだまだ課題であるが、共通の課題としてみんなが認識できたという意味では、1歩進んだのではないかなと思う。